

第11回中四国MIST研究会 開催報告

MIST学会会員各位

第11回中四国MIST研究会のご報告をさせていただきます。

令和5年7月29日に島根県松江市で本研究会を開催しました。猛暑の中、総勢100名の方々に参加いただき、盛会のもとに無事終了しましたことをご報告いたします。

島根県で初めてのMIST関連の研究会であり、島根だけでなく、中四国の主に若手医師、メディカルスタッフの方々の参加を募り、次世代につなげていく研究会にしたいとの思いで、テーマを「島根でMISTを学ぶ」としました。若手医師の部、メディカルスタッフの部の演題を設け発表、討論していただきました。若手の先生、メディカルスタッフの方々ともに堂々と応答しており、頬もしさを感じました。手術室看護師のエキスパートとして香川県立中央病院手術室看護師の酒井香余さまにご講演をいただき、脊椎手術における手術室看護師の役割について理解を深めることができました。

医師による演題のメインは「各県代表脊椎手術」と題し、中四国各県から、力を入れている脊椎治療について披露していただきました。内視鏡手術や骨粗鬆症、外傷治療など、多岐に渡る脊椎手術についての演題がありました。中四国だけでなく福岡県からも演題をいただき、本研究会ならではの地域の垣根を超えた交流ができた大変意義あるセッションになりました。

特別講演は、島根大学医学部リハビリテーション医学講座講師の酒井康生先生にリハビリテーション医から見た脊椎治療のご講演を、和歌山県立医科大学附属病院紀北分院整形外科教授の中川幸洋先生には成人脊柱変形のご講演をいただきました。非常に深い内容のお話で、時間を忘れる思いで講演を拝聴しました。お二人の先生にはこの場をお借りして感謝申し上げます。

ハンズオンセッションには3社のご協力で4講座を設けて約40の方に参加していただきました。100分を前後半に分けて全員が2講座受講する構成にしました。狭い会場ではありましたが、複数の手術機器が体験でき、講師の先生の熱い指導で、大変勉強になったこと思います。

若手演題とメディカルスタッフ演題には優秀演題賞を選出し、若手演題は鳥取大学の中村太紀先生、メディカルスタッフ演題は島根大学手術室の伊藤千怜さんが選ばれました。今後の一層のご活躍を祈念しております。

来年は第14回最小侵襲脊椎治療学会が川崎医科大学の中西一夫先生会長で、倉敷市で開催されます。従来の学会にはない魅力的な内容になることと思います。多くの先生方のご参加をお願いいたします。





第11回中四国MIST研究会
浜田医療センター整形外科
柿丸 裕之